

## 恵庭市総合計画審議会（会議記録）

会議名	恵庭市総合計画審議会／ 専門部会／(第3回)都市環境部会	
日時	平成17年6月9日(木)午後2時00分～	
会場	市役所(3階)第2委員会室	
出席者	委員～玉川委員・神田委員・長谷川委員・富永委員・吉田委員・池永委員・浅野委員 市側～竹村(企画財政部長)・銅道(総務部次長)・松山(生活環境部次長)・奥山(建設部次長)・伊藤(水道部次長)・高橋(消防本部次長)・柴田(消防署長)・寺内(市街地整備室主幹)・今井(廃棄物広域処理推進室課長)・菅原(企画調整課長)・吉田主査・佐々木主査	
記録	氏名	企画財政部企画調整課 主事 山口 晃弘

### 1.開会

### 2.審議事項

- (1) 総合計画策定に向けた基本事項の調査・検討について
- (2) その他

### 3.その他

### 4.閉会

### ○ 会議の概要

**(玉川部会長)** 本日の審議は、まちづくりの基本目標の4項目である「生活環境が整い安全安心でゆとりあるまちづくり」について審議内容とします。

**資料説明** 事務局より審議資料「基本構想検討案」の11ページから12ページに掲げている(1)「市街地整備」～(8)「墓園」までの施策の基本的な方針について説明。

**(玉川部会長)** まず最初に(1)の市街整備について意見をいただければと思います。

**(富永委員)** 総体的には理解できるが、内容が抽象的である。資料の30番「公営住宅の整備を進めます」で掲げている基本方針の中で、市営住宅の担うべき役割というのがあるが、市営住宅の役割とは住宅の提供という役割を意味するのか。

**(奥山次長)** 市営住宅は「公営住宅法」という法律に基づいて実施されており、従来、住宅困窮者への住宅供給が主な目的であり役割である。しかし、近年では困窮者というよりは低所得者用に低家賃で供給されている傾向にある。しかし、恵庭市の立地条件などから民間アパートやマンションの建設が盛んに行われ供給されている。このような背景から、市営住宅としての役割など、その在り方について見直す必要があると考えている。新たな市営住宅を建設し供給することが引き続き必要であるのかも含めた中で整備を進めてい

くことになる。

(富永委員) 項目の33「冬も移動がしやすい環境づくりを進めます」について、第3期総合計画の中で、雪の利用について研究課題であったと思う。これまでに何か具体化されている施策があるか。また、単なる雪の除排雪から一步踏み出してはどうかという希望的な意味を含めて考えを聞きたい。

(奥山次長) 項目の33は、道路の雪を活用するとの前提で書かれたものではない。排雪される雪には砂や融雪剤が含まれており利用は無理。ただ、除排雪以外の雪を使ったエネルギーとしての活用方法はいろいろあると思う。

(竹村部長) 省エネ・新エネルギーは今後の検討課題である。雪を資源として活用することについて引き続き検討する方向で整理したい。

(浅野委員) 基本方針の中で、雪の関係で「市民の協力を得て・・・」とあるが、具体的にどのような協力が考えられますか。

(事務局) 具体的には、「パートナーシップ排雪制度」とか「融雪施設設置費助成制度」による取り組みを想定している。また、ボランティアという部分では、例えば、老人家庭宅の除雪なども考えの中にある。

(奥山次長) 以前、市民によるまちづくりを考える「恵庭市まちづくり市民会議」が開かれ、議論の一つに地域の除雪がテーマとして取り上げられている。そこで行政の役割、市民の役割が議論され、「パートナーシップ排雪制度」という、市民と行政による除雪の在り方が検討されている。新しい発想による取り組みがスタートしたわけです。

(長谷川委員) 32ページに「ユニバーサルデザインのまちをめざします」とありますが、JR恵み野駅西口の前にあった病院施設がなくなり整地されました。ある意味では見晴らしが良くなったわけです。しかし、何か殺風景な感は否めない。周辺に住む者としてこれから何が建つのか話題になっている。そこで、ユニバーサルデザインのまちづくりについて説明されていましたが、跡地の整備とあの周辺から島松まで、以前、あの辺りには大きな夢がありました。その後の経過について聞かせていただければありがたい。

(竹村部長) あの地区は、戦略プロジェクトとしての「ハイコンプレックスシティ構想」の中で、分散した市街地の一本化を図ることを目的に西島松複合都市開発が検討され、実際に大手の企業による開発のための計画が進められておりました。しかし、バブルの崩壊など経済環境の悪化により開発が断念されたという経過があります。その後、新たな話もなく現在に至っているわけです。あの地区は、農業振興地域であり開発するときには市街化区域に編入して開発する必要がある。市としては、開発に必要な諸条件を整えいつでも許可することになる。3つの市街地を一つにするためのまちづくりをこれからも進めていく必要があると考えている。

(神田委員) 項目の29「・・・恵庭駅周辺整備を進めます」について、JR恵庭駅東口は道路も素晴らしく住宅も建ってきています。西口前の市街地整備も計画されている

ようですが、都市の中心として相応しい駅周辺地区となるまでにはどの程度の期間を要するのか。

**(寺内主幹)** 恵庭駅周辺の整備については、基本計画の素案が示され、昨年の暮れから地元説明会が行われている。今後の作業として、地元の権利者の同意を得た後に、都市計画決定の手続きと事業認可を受け事業に取りかかることになる。そこで、事業の具体的な着手は何年後なのかですが、地元地権者の同意がいつになるのかがポイントになる。それによって事業スケジュールが変わってくる。それから事業期間を何年くらいで見込んでいるかについて、今、基本計画が決定されれば事業予算を検討することになる。市全体の施策の一つとして、総合的に判断し何ヵ年計画にするのかはこれからの課題である。今の段階で具体的な事業期間は明確になっていない。

**(浅野委員)** まちの発展を考えれば、大型店舗に頼るよりも地元の商業者を盛り上げていくことが大事になるのではないかと。

**(玉川部会長)** 総合調整部会でも議論になっていますが、市民6万7千人の方々がどこで欲求を満たすかということ、地域の部分であったり大型店であったりするわけです。そのあたりのバランスが大事。上手く調節していく必要があるのではないかと。

**(長谷川委員)** 高齢化社会が進むと地域共同体が重要になる。地域の人がいろんな面で協力して支え合う体制の構築が求められる。大きい店だけが活発になるのではなく、地域の共同体が生かせる地域の店舗が大事であり、共同体意識がその店を盛んにする。大きいものより、3つの地域でそれぞれ特色のある店があって、それを中心に地域コミュニティが構成されると良いのではないかと。

**(浅野委員)** 消費者は、買い分けるし使い分けもする。お店の方も勉強して消費者ニーズに応えていく必要があると思う。特に、若い人のニーズに応えていくことが大事。札幌にあるものと恵庭にあるものが全く同じでは意味がない。難しい面もあると思うが、区別していくのも重要なのではないかと。

**(吉田委員)** 項目の34「道路・・・まちの案内標識を充実します」について、市民会館とか小学校、公共施設を案内する標識をある程度統一したものにしてみてもどうか。また、表示ではなく形や色などトータルでみて綺麗に見えるものが良い。

**(玉川部会長)** ユニバーサルデザインという考え方につながる話ですが、誰が見ても分かりやすい分かるということが大事。幼稚園児であっても分かるような表示の方法を考える必要がある。

**(事務局)** 案内標識については、既に開催しているまちづくりトークなどの場でも意見が出されています。これまでの皆さんの意見も取り入れながら検討し計画に反映したいと考えている。

**(長谷川委員)** 今、私どもが話し合っているのは、今後10年を目処にしての希望を述べているわけですが、これまでの資料からは具体化したビジョンのイメージが沸かない。計画には、何をどこまで、何年の目標なのか、それはどの時点で反省し評価をし

て、次のものにつなげていくか、ある程度の見通しがあると思うわけです。今回、3回目の審議会ですが、もう少し具体的な施策を示していただいた上で議論を進めて欲しい。

**(竹村部長)** 現在、皆さんには基本構想の段階での議論をお願いしている。ここでは、将来のまちの姿や方向性をそれぞれの専門の立場からご意見をいただきたいと考えている。今後については、さらに踏み込んだ基本計画を議論していただくこととなります。これまでの皆さんからのご意見を盛り込みながら、各施策の目標を具体化するため検討していただくこととなります。今、庁内で主な施策の検討を進めており、次回の審議会では、これを盛り込んだものを見ていただくこととなります。また、最終的には、細かい事業を載せた前期「実施計画書」が策定されます。3年間で具体的に何をやるかを示すこととなります。

**(玉川部会長)** 次に、交通安全対策について何かご意見がありますでしょうか。

**(浅野委員)** 現況と課題に「交通弱者に対する・・・」とありますが、エコバスの事で昼間は一時間に2本、夕方になると1時間に1本程度の運行のようですが、通勤者の利便を図るためにも帰宅時間帯に合わせた運行ができないか。冬場、利用客が増えたりすると思うのですが、その辺りの対策は考えているのでしょうか。

**(松山次長)** エコバスは平成10年11月から運行しました。その後、市民からいろいろ要望が出されました。このため市民の各界各層の方からなる地域生活交通検討会に検討をお願いしたところでもあります。既に報告書が市に提出されており、今後、これを基に見直していきたいというふうに思っている。運行時間の延長について、限られた3台のバスで市内を網羅するには、運行時間の関係からも厳しい状況にある。

**(富永委員)** 私も検討部会に携わった一人です。そこで、どこの都市でもバスの運行は財政面で非常に厳しい状況にある。継続性が保てるかという事に関しては非常に危ぶまれる声もある。したがって、サービスを考えると経営的に足かせになるわけです。当初、料金もワンコイン(100円)との声もありました。しかし、運行の継続性を第一に200円という額に収まった経緯がある。いろいろ不便なこともあるが、市民の皆さんの維持しようという思いも大事にしなければならない。

**(神田委員)** ごみ問題について、広域でのゴミ処理化が進んでいない状況があるわけですが、かと言って、今の埋立場が10年後も続くとは思わないわけです。そこで、ゴミの減量化とリサイクルが大事になる。恵庭もある程度リサイクルや減量化、堆肥化などに取組んでいます。なかなか浸透していないのが現実。また、現状では燃えるごみも燃えないごみも同じく埋立処分されている。いろいろ課題もあるが早めに対策を講じる必要があると思う。計画されている新たな処理施設の整備状況はどのような状況にあるのか。

**(富永委員)** 現状の埋立場も徐々に埋まってきていることから、新たな用地を確保し準備しているという話は聞きますが、整備をするためには膨大なお金がかかるわけです。したがって、計画しているごみ広域処理施設が、早く出来る・出来ないによって財政

的にも影響があると思うわけです。総合計画の中でしっかり考えていくべきだと思う。

**(今井課長)** ごみ広域処理施設は、当初、恵庭・北広島・長沼・南幌・由仁それから栗山町の2市4町で協議が始まり、その後、栗山町が単独処理をしたいということから、現在、栗山町を除く2市3町で協議を進めている状況。平成15年5月に、ごみ処理広域化施設整備基本方針が策定され、1次整備として焼却施設、2次整備として再生利用施設の整備を計画的に行うことになっている。平成22年度中には稼働したいと考えているが、用地取得の時期によっては施設の整備も遅れることになる。

**(松山次長)** 家庭から出るごみの関係ですが、燃えるゴミも燃えないゴミも最終処分場に搬入されているのが現状。このようなことから、現在使われている第4期の埋立場も、当初平成21年まで使用できると見込んでいましたが、今の状況では平成19年には満杯になると予想している。したがって、あと2年程度使用が出来るよう嵩上げするとともに、新たに、第5期処分場の整備を計画しているところです。いずれにしても、ごみ広域処理施設が早期に稼働することが課題であると考えている。もう一点、ごみの減量はリサイクルということが重要になってくることから、平成12年からリサイクルセンターを稼働させているところです。

**(玉川委員)** 項目40「防災の部分」最近、新聞によれば樽前山の火山活動が活発になっていると報道されています。恵庭にも防災計画があると思うのですが、以前、被災地にボランティアとして参加した知人は、現地で苦労したことの一つに生活道路が寸断され、何も出来なかったと話している。防災を考えると、いろいろリンクしながら、様々な要因が重なり合った都市基盤の樹立を視点に書き込んでいく必要があるのではないか。

**(竹村部長)** まさに市民との協働の部分になってくる。今後、個別事業が検討されますので、それを見ていただければ、施策のイメージを分かっていただけだと思う。ただし、協働の部分の考えをまだまだ盛り込んでいく必要があると感じている。

**(玉川部会長)** 防犯について、今、和光小学校の評議委員をしているのですが、不審者がいるとの情報から、警察署の協力を得て巡回パトロールを行ったことがありました。その際、商店や企業、市も通勤や仕事で車を運転するドライバーの方に不審者を見かけたら学校に連絡するような取り組みをしてはどうかと話題になりました。地域で子どもたちを守っていくためには、結局、市民との協働が大事になる。自分の子どもだけ守ればいいというのではなく、市民が市民の子どもたち守っていくというような形の何か抽象的ですが、行政や警察だけではなく市民と一緒に防犯防災に取り組んでいく必要があると思う。また、防災の視点から市内には三つの駐屯地がある。非常時になれば、連携して守っていただけるという部分もあると思う。防災の部分でも自衛隊の協力体制をどんどん表に出してもいいのではないかと。自衛隊がまちに駐屯しているメリットも恵庭の特徴だと思う。

**(長谷川委員)** 消防関係で、37ページの現況と課題の救急需要について、高齢化の進展や疾病構造等の変化が言われている。年々救急需要というのは増えてるものなのか。

**(高橋次長)** 平成10年度から救急需要の変化ということで高規格救急車を配置して救急業務に努めている。救急車には必ず救急救命士が1名乗り業務にあっている。救急需要については、平成16年に1,640件を数え、平成9年と比較して64%伸びている。ちなみに救急需要の35.5%が65歳以上である。尚、救急車の要請から現場到着までにかかる時間は全国平均で6.3分、恵庭市は5.2分で一分程度早いという結果がありますが、救急車が到着するまでを埋めようということで救急講習会を実施している。平成9年から現在まで1万884人の方が応急措置の講習会に参加していただいている。高齢化が進んでいることもありますから、市民の皆さんに積極的に講習に参加していただけるよう対応していきたい。

**(池永委員)** 救急車は、病院までの経路が決まってるんでしょうか。

**(柴田署長)** 最寄の場所から災害現場まで最短距離でというのが原則。また、JR線路の踏切は避けて必ず高架を走るようにしています。

**(玉川部会長)** 項目46の「恵庭墓園の整備……」ですが、第3期の墓園整備も概ね完成しているようですが、個人的にはお墓だけではなく広場のような市民の憩いの場もあって良いのではないかと考えている。

**(富永委員)** 墓園の整備にあたっては、住民の皆さんの意思を大事にしていかなければいけないと思う。地域の環境整備もセットとして考えていくべきだと思う。

**(竹村部長)** すでに広報誌を読んでいただけたと思うのですが、今、墓園周辺では総合運動公園が計画されています。また、自然豊かな環境を生かした農村交流ゾーンとしても位置づけられておりその活用が期待されています。この地域の整備については、長い歴史の中で検討され、現在に至っているという経過がありますが、今、総合運動公園の整備について、市民にパブリックコメントによる意見を伺っているところです。

**(玉川部会長)** それでは、本日の会議も予定の時間となりましたので、以上で本部会の審議を終了いたします。長時間ありがとうございました。

閉 会